Media Information

令和3年3月31日 兵庫県介護老人保健施設協会機関誌

第5回兵庫県介護老人保健施設大会 演題発表 奨励賞を受賞し機関誌に掲載されました。 「シニアファションショーへの取り組みを通して」 大中由宣(介護支援専門員)

- 第5回 兵庫県介護老人保健施設大会 -**演題発表 優秀奨励賞** 介護老人保健施設すばる六甲・介護福祉士 花 倉 弘 美

「人生の最期の時に寄り添わせて頂く・・・」

えしめに」 それも看取り対応利用者最後の吐息に立ち会わせいただいた。永遠の眠りにつかれたことがわからぬ程とても静かで、穏 かな表情されていた。利用者の一生運聴命終時の瞬間に立ち会わせていただく責任の重さを痛烈に感じる。 厚生労働者によると2040年は「団塊ジュニア」の全てが65歳を迎え、65歳以上の人口がほぼピークを迎える年。年間

死亡者数も最も多くなる。 最期の時を迎えても死心場所がない。常取り難民。が発生するとの記事も目にする。場所の選択肢として介護施設による エンド・オブ・ライフケアが強化されている。今後も増える高齢者の看取り対応に如何に取り組むことが利用者、家族にとって最 等なのか。介護老人保健施設だからこそできる多職種協働での看取りについて事例を報告する。

K氏、入所日:2017年7月25日·85歲、退所日:2018年12月20日·86歲、死因:老衰(慢性腎不全)

▼ XA ▼ K K の Q O L 向上に試行錯誤した。常にインフォームドコンセント、コミュニケーションにより自己決

定と尊厳を守る。 ことあるごとに険しい表情で激しく怒鳴られるK氏の思いに寄り添いえるように努める。 職員とのカンファレンスにより日常生活ケアのさらなる充実を図り、希望する人生最期の時を過ごしていただくことに留意した。

K氏の満面の笑顔、美味しかったと語られたことが家族の安堵感、深い悲しみを脱する力に ながったのではないか。ケアに携わる全ての職種協働によりK氏によりよいケアを提供することが

日々、K氏自身の満足度がどれ位であったのかを自問自答するが答えが見つからない。

高齢者介護は人生の集大成となり命と向き合う事である。心安らかでその人らしい「最期」とはどうすれば良いのか。 利用者自身が求める自分らしい逝き方QOD(Quality Of Death)を利用者・家族と共に私

たち職員も考え、支え、「悔いのない最期」を迎えられる看取リケアを目指さればならない。人生会 識アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の重要性も実感する。それらのことが利用者自身の自分 らしい生き方QOL (Quality Of Life) にもつながり、全人的に支えるということになるのではない

たろうか。 看取り介護は利用者の日常生活の延長線上にある。最後までお預かりし、お見送りする形も施 設理念「状態像」応じて在宅復帰をめてす」であり在宅支援でもあると考える。 地域包括ケアシステムのHUB老健、一員として常に利用者に寄り添い研鑽を積みたい。







第5回 兵庫県介護老人保健施設大会 にっこり ほっこり 安心な暮らしと自立支援

その後、五演題・三部構成で計上住之氏)の表彰式を行いました。

に選ばれた優秀奨励賞(むつみ園・橋拶。引き続いて、前回大会で優秀演



映像、音声共に問題なく参加することができた。

質問にもスムーズに対応していることに感心した。 会場にいる感じで集中して参加できた。

すばる六甲・花倉弘美氏(介護福祉士)

~車イスから歩行器歩行へ~

基づかない情報は「誹謗中傷と差別」に正しい真実を把握することで、事実

新型コロナウイルス感染症拡大等に始めに、森村会長の開会挨拶では





